

H 2 4 . 1 1 . 2 9 設楽ダム猛禽類検討会 議事概要

日 時：平成 2 4 年 1 1 月 2 9 日（木） 1 6 時 0 0 分～ 1 8 時 0 0 分

議事概要：以下の表の通りです。

表 H 2 4 . 1 1 . 2 9 設楽ダム猛禽類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	報告事項	委員の主な意見	意見に対する回答
1.猛禽類検討会の検討経緯について	・猛禽類検討会の経緯、前回検討会での指摘と対応について報告した。	・特になし		
2.平成 2 4 年繁殖シーズンの調査結果について	・クマタカ、オオタカ、ハチクマ、サシバ等の調査結果について報告した。	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング調査対象の 3 ペアすべてにおいて繁殖が確認された。 ・3 ペアについてコアエリアや繁殖テリトリー、幼鳥の行動範囲の把握を行った。いずれの行動範囲についても、大きな変化はないと考えられる。 ・オオタカは、雌個体が確認されず、繁殖は行わないと判断して、調査を 6 月までとした。 ・サシバは巣内雛を確認した。 ・営巣木として利用していない個所の CCD カメラの撤去について報告した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A ペアの巣内雛のみ確認が遅れているが、何か要因があるのか。 ・幼鳥の行動範囲について大きな変化がないとしているが、成鳥は毎回同じ個体が繁殖するのに対して、幼鳥は毎回個体が違うため、同じになる可能性が低いのではないか。そのため、過年度と異なった飛翔箇所が示されているなら、見直しが必要と考える。幼鳥の行動範囲の示し方として、年ごとに飛翔箇所の最外郭で示した方がよいのではないか。 ・A ペアの食痕として確認されたサシバは巣内雛かまたは成鳥か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：要因は不明だが、他のペアは前回と同じ巣を使用しているが、A ペアは新規に営巣した巣を使用している違いはある。 ・事務局：本資料の幼鳥の行動範囲は、一般的なクマタカ幼鳥の生態と地形条件を踏まえて推定しているため、飛翔箇所が異なっても推定される範囲を変更していない。ご指摘を踏まえ、確認した飛翔箇所の最外郭を凸多角形で示す最外郭法も用いて行動範囲の整理を行う。（整理した資料は、後日委員に確認していただく） ・事務局：食痕で回収した骨片からは把握できなかった。 ・委員：クマタカ以外の猛禽類を含めた事例として、他の猛禽類の巣内雛や、種によっては成鳥を襲う例がある。
3.平成 2 4 年度のモニタリング結果の評価について	・平成 2 4 年度のモニタリング結果の評価について報告した。	・平成 2 4 年度については、設楽ダム工事事務所で工事を実施していないため、ダム建設工事の影響はなかった。	・今後いつ工事が実施されるのか。	・事務局：現在のところダム検証中であり、未定である。
4.平成 2 5 年繁殖シーズンの調査計画(案)について	・平成 2 5 年繁殖シーズンの調査計画(案)について説明した。	<ul style="list-style-type: none"> ・クマタカは、平成 2 4 年繁殖シーズンと同様の調査計画(案)を実施する。 ・かつてオオタカが繁殖していた箇所は、猛禽類を網羅的に把握する「その他猛禽類調査」に変更し、その調査計画(案)について報告を行った。 	(事務局が示した調査計画(案)で実施することです承された)	